



周囲の木々が顔を覆い、手前の深い谷間に小さな木造の建物を溶かす役割を担っている。



妻の職場を通して森と川を見る。左の開口はダイニングに繋がる。



真駒内側から外観を見る。真には緑豊かな木漏れ日がダイニングに落ちる。



ダイニングを通して森を見る。対岸は札幌芸術の森。



玄関より見る。階段下は半地下のリビング、上は妻の職場、最上部は寝室。



上空よりとぎわの家の様子。配置は一部屋上移化している。



テラスからダイニングを見る。



夏のダイニング。テラス床材は札幌杉。



アトリエ側のテーティングスペース。

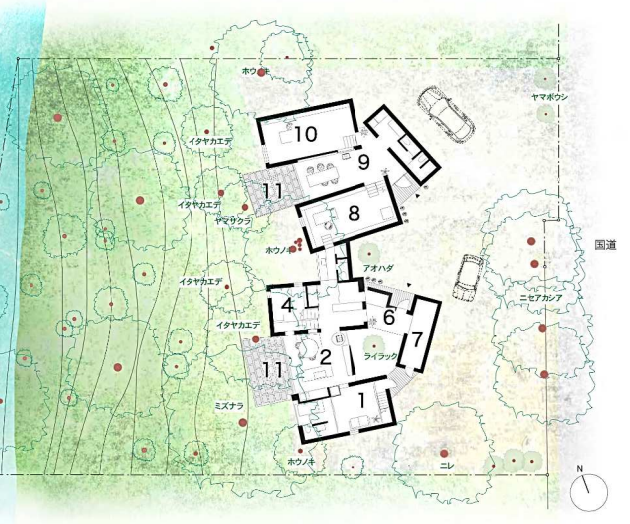


五十嵐威蔵氏のアトリエ「601のび」。



半地下のリビング。開口からダイニングが見える。

- 所在地 札幌市南区
 - 主用途 住宅/事務所
 - 地域・地区 第一種住居地域
 - 構造・階数 木造 2階建
 - 敷地面積 1437.56㎡
 - 建築面積 1977.0㎡
 - 延べ面積 2375.5㎡
 - 最高高さ 5.660m
1. 父親の週末住居
 2. ダイニング(共有空間)
 3. 妻の職場
 4. リビング
 5. 寝室
 6. 玄関
 7. 納戸
 8. アトリエ
 9. ミーティングスペース
 10. 彫刻家の創作小屋「もりのび」
 11. 札幌杉テラス



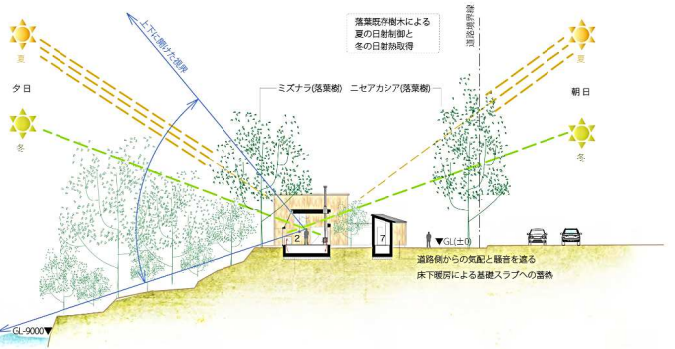
配置平面図 1:300

ときわの家

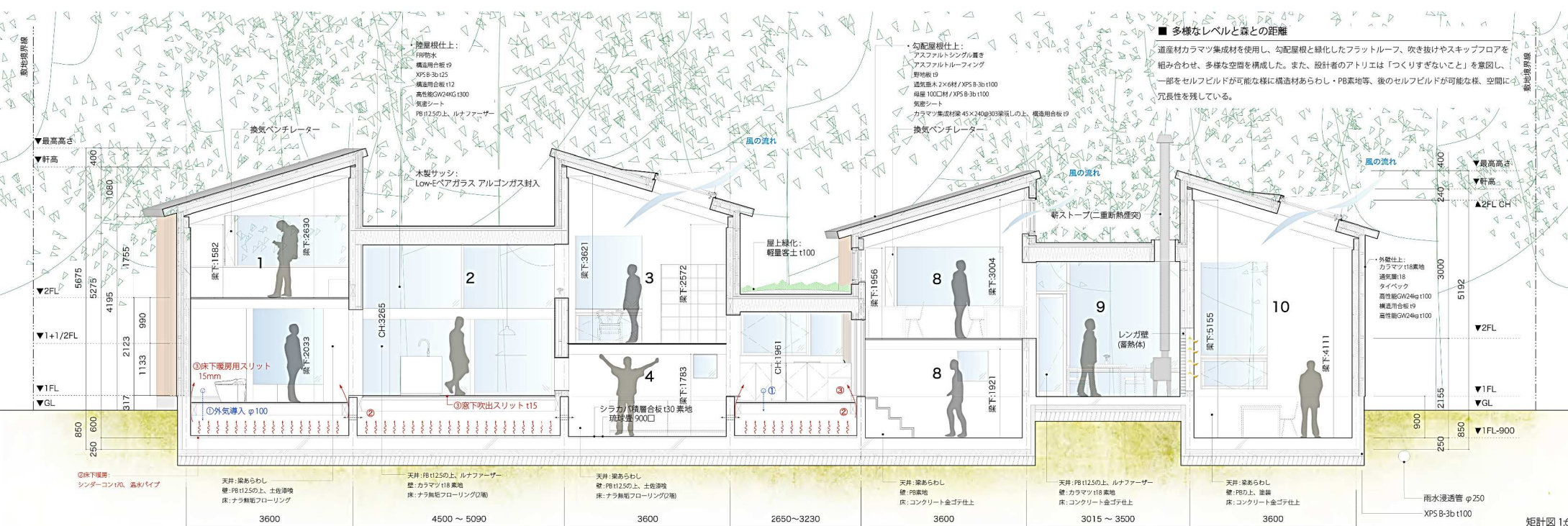
■ 森と繋がった空気感

開口部は風景を切り取りつつ、川からの涼しい風を取り込み、夏の直射は広葉樹で遮り、冬は遮断することによりダイレクトな光を遮断している。
森や川に囲まれた空間とニセアカシアの木が作り出す木陰の下で朝日を浴び、ミズナラがつくる夕日の陰を眺めてほっと一息つく。森と繋がった空気感を構成することを意図している。

ときわの家は、自宅と妻の職場/父親の週末住宅/自分のアトリエ/彫刻家五十嵐威蔵氏の創作小屋「もりのび」が、共有空間を介して付かず離れずの関係で一つになった建築である。敷地は西側に緑豊かな札幌芸術の森と真駒内川に面し、東側は支路へ通じる交通量の多い国道沿いにある。ミズナラの木とイタヤカエデ、サクラ、ホノキなどの既存樹木に寄り添うように、カラマツ系地の少し小さなボリュームを分散配置した。街並みに対しては背景の森に溶け込めたいという意向があり、内部においては森の中に深く分け入ったかのような生活空間となることを意図した。複数の床レベルと天井高さを組み合わせ、木漏れ日を浴びて半屋外のような天井高さ3.3mの共有空間から、小動物の産家のような天井高さ1.8mの集まる空間まで、森との多様な関係性を作り、四季の移ろいを楽しみながら豊かな時間の過ごし方ができるようにした。アトリエの一部はスタッフとのセルフビルドで、暖房は薪ストーブのみ。夜は薄暗く、解決しづらい、納めづらい、そろそろ寝ない、やや不便さを感じる中に生活の充実を感じられないかと考え実践の場とした。



ダイニング断面図 1:400



矩計図 1:60